

[illegible]

【出典】以下資料より作成
施設分布：市内公共施設一覧
下図：国土基盤地図

小金井市新庁舎・（仮称）新福祉社会館複合化整備方針（平成30年度）

平成25年3月に小金井市新庁舎建設基本計画を、平成30年3月に（仮称）小金井市新福祉社会館建設基本計画を策定。その後、小金井市新庁舎等建設計画調査及び（仮称）小金井市新福祉社会館建設基本計画において、複合施設で整備することの検討が進められた。

以下のようなメリットから、（仮称）新福祉社会館の機能は、新庁舎との多機能・複合化により、福祉と行政とのつながりの強化、市民サービスや利便性の向上が見込めるとの調査結果を得たため、新庁舎及び（仮称）新福祉社会館を複合施設として整備することとした。

【機能・施設管理に関するメリット】

「市民のための庁舎」に

- 市民サービスの中核を担う庁舎と地域共生の拠点たる（仮称）新福祉社会館を同じ敷地に建設することは**市の総合的サービス提供の基盤を整えることにつながる。**
- 案内から相談窓口、各課窓口を適切に配置することにより、生活上の相談から申請手続、申請手続の中で生じた相談への対応、双方を「入口」とした市民ニーズに対し相互の連携が取りやすくなり、**市民サービスの向上とともに円滑な事務執行が可能となる。**
- 新庁舎・（仮称）新福祉社会館に想定される**1階エントランスホールを広い共用部とすることにより、情報発信・展示などを想定した豊かなイベントスペースを創出**することができる。
- 複合化により**市職員と市民が触れ合う機会が増え、市民サービス向上とともに市職員の意識向上にもつながる。**

新庁舎基本理念のバックボーンの強化

- （仮称）新福祉社会館の基本的な機能である「保健福祉の総合的支援の充実」、「参加と協働による多様な交流や活動の推進」及び「地域福祉活動の推進」は、**「きずなを深めるノーマライゼーション」及び「市民に分かりやすく便利」という新庁舎の基本理念にある2つのバックボーンをより強固にできる。**

新たなまちおこしの拠点として

- 小金井市都市計画マスタープランにおける「にぎわいと交流を誘導するゾーン」、「新たなまちおこしの拠点」に位置する貴重な土地について、**土地利用効率を向上させつつ多世代、多目的利用を図ることができる。**

施設の運営管理

- 複合化することによって、施設の維持管理、運営管理等の一元化により、**維持管理の効率化、面積の削減が期待できる。**

【設備等縮減によるメリット】

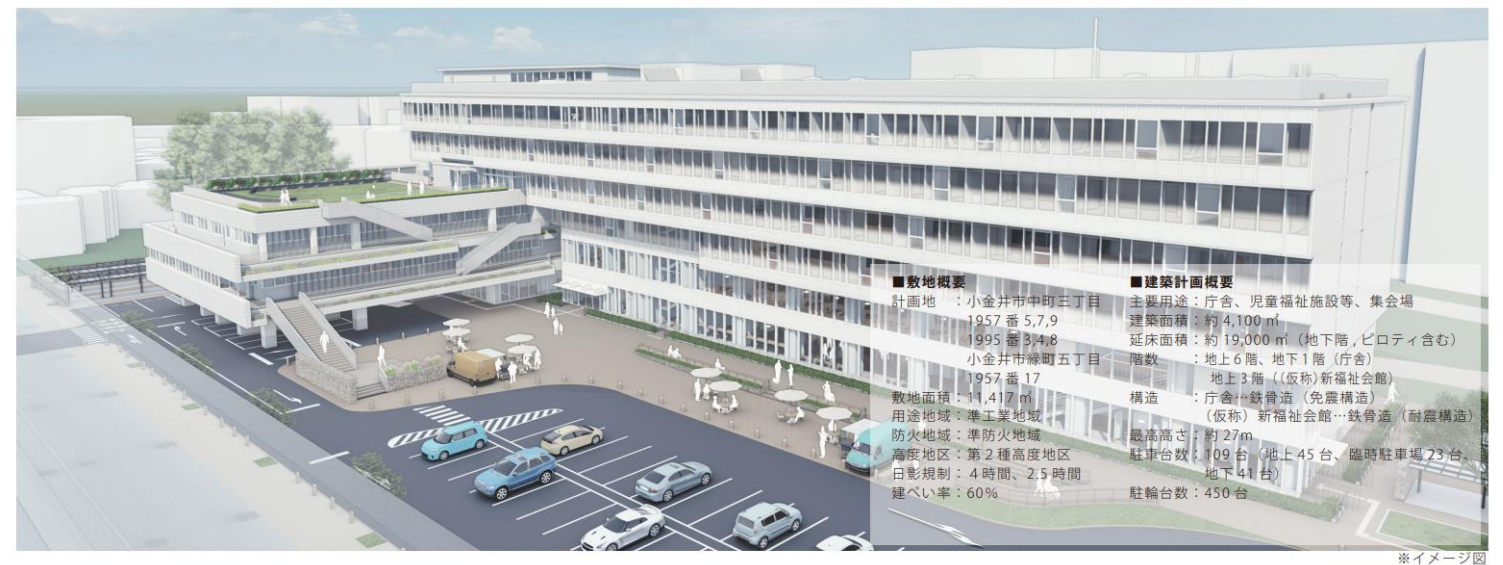
- 山留・柱・壁を共有できるとともに、共用部が縮減でき、イニシャルコストを低減できる。**
- 中央監視や各設備機器について、施設ごとに整備するよりも、**1施設にまとめて整備する方が効率的であるため、イニシャルコストを低減できる。**
- 単体の場合、空調設備、受変電設備、非常用発電機は、それぞれの施設に必要なが、**複合化することで共有することが可能となる。**
- 給排水設備及び消火設備は、施設に一定の離隔がある単体に比べ、複合化の場合は**施設間の渡り配管分を減じることができる。**

【出典】小金井市新庁舎・（仮称）新福祉社会館複合化整備方針

【現在の設計】

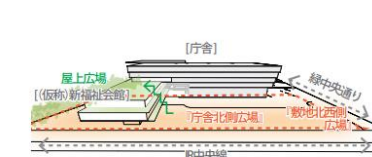
設計の基本方針

「庁舎」と「（仮称）新福祉社会館」を『重ね合わせ』市民が主役となる『交流の場』をつくります



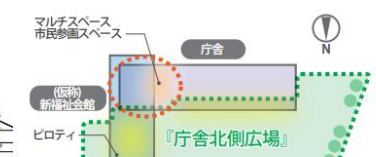
point 1 建物と一体となった立体的な『広場』

- 敷地内に大きなスペースを創出し、さらに（仮称）新福祉社会館の屋上まで立体的に緑を繋ぎます。
- 市民の憩いの場、交流の場となる『広場』をつくります。



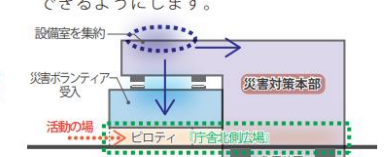
point 2 『重ね合わせ』ることので生まれる交流の場

- 庁舎と（仮称）新福祉社会館の複合部分であるマルチスペース、吹抜けに面して市民参画スペースを配置することで、人と人が集う活動スペースが繋がり、両施設の相互利用が活性化します。



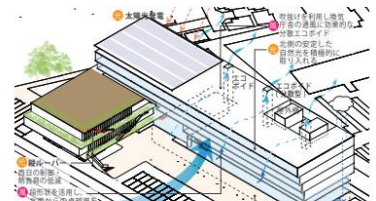
point 3 『防災の拠点』として、安全・安心の複合庁舎

- 災害対策の拠点となる庁舎は、発災後、速やかに活動できるよう免震構造を採用。災害ボランティアセンター等が設置される（仮称）新福祉社会館は、強度を1.5倍とした耐震構造とし、防災拠点として機能できるようにします。



point 4 循環型都市を目指して、環境にやさしい施設

- 小金井の自然を活用し、高効率設備の設置、運用により、快適で省エネルギーな環境にやさしい施設を目指します。



【出典】小金井市新庁舎・（仮称）新福祉社会館建設実施設計説明書